



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

4月号—No.300
2020.3.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【櫨染(はじぞめ)】赤みのある黄色。

山櫨の樹の黄色い芯材を使って染めた色。他に山櫨を使って染める色には、天皇が晴れの儀式に着る袍(ほう)の色である黄櫨染(こうろぜん)がある。こちらは櫨だけでなく、黄櫨、蘇芳を加えて染めた黄色がかった褐色。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボいわきセッション報告

財団からのお知らせ..... 4

「第20回地域伝統芸能まつり」中止のご報告 / 「地域創造フェスティバル2020」参加者募集 / 「公共ホール求人情報」 / 「公共ホール研修会 / シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法 / リージョナルシアター事業の発展事例

今月の情報..... 6

地域通信

調査研究事業報告..... 10

2019年度「地域の公立文化施設実態調査」① 速報 全体概要

今月のレポート..... 12

静岡県島田市、川根本町

UNMANNED無人駅の芸術祭 / 大井川2020

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

当財団ホームページを2月25日より
リニューアルしました。求人情報等
の掲載申し込み方法についてはp.4
をご確認ください。

地域とホールの繋がりを学ぶ

ステージラボ いわきセッション 報告

2020年2月18日～21日



今年度2回目のステージラボが2月18日～21日、ホール入門、自主事業(音楽)、公立ホール・劇場マネージャーの3コースで開催されました。会場は、2009年に全館開館した大規模な複合文化施設のいわき芸術文化交流館アリオスです。PFIで建設され、市直営で事業を展開。東日本大震災では本館ロビーを避難所として開放したのをはじめ、「おでかけアリオス」というアウトリーチに力を入れてきました。今回のラボは、そうした地域とアリオスとの繋がりを学ぶ充実した研修となりました。

●三和地区をフィールドワーク

今回のラボで特徴的だったのが自主事業(音楽)コースのプログラムです。コーディネーターを務めたピアニストの田村緑さんは、2016年から18年までおでかけアリオスのアソシエイト・アーティストとして山間部の三和地区に継続的なアウトリーチを行う「三和プロジェクト」を展開(19年にも地元演奏家と事業を実施)。自主事業コースではその三和地区に赴いてフィールドワークするバスツアーを行いました。

前日に、いわき市三和支所の草野達也さんから三和地区について事前学習した受講生は、田村さんのガイドで、個人宅のリビングを開放

して演奏会を行った旧家や出前演奏したコミュニティ施設「いこいの学校長居小」(旧永井小学校)、廃校になった差塩小学校、上三坂公民館などを訪問。三和町区長会会長やコミュニティ施設を運営するNPO法人代表など、受け入れ先のキーパーソンから直接お話を伺いました。

上三坂公民館では、田村さんと地元演奏家の常光今日子さんが実際に演奏を披露。田村さんは、「プロジェクトにあたって現地を訪ね、どこにピアノがあるかも調べ、どう地域と関わるかアリオスと相談した。その過程で上三坂公民館の改修中に屋外に置かれていたこのピアノと出会った。小学校に町民が寄附したものだとなり、修復して演奏会を行った」と懐かしそうでした。区長会会長の永山肇一さんは、「市の中心まで30キロもあり、音楽の鑑賞機会がない。おでかけアリオスで、音楽を通じて地域の人が交流し、素晴らしい思いを共有することができた。住んでいるところが好きだから、もっとよくしたいというのがまちづくりの基本だと思う」と三和愛を語り、受講生の心に響いたようでした。演奏会後には地区の方々の心づくしの地元料理で交流するなど、演奏家と地域の継続的な関わりが育んだ豊かな繋がりを実感したフィールドワークになりました。

写真

左上:ホール入門コース「コンテンポラリーダンスのじかん〜知って、体を動かして、つくってみる」(講師:セレノグラフィカ)

右上:自主事業(音楽)コース「町と出会う」(上三坂公民館での地元の方々と交流会を開催)

左下:公立ホール・劇場マネージャーコース「ホール設置者からのメッセージ」(講師:母袋創一さん)

右下:共通プログラム「いわきアリオス アウトリーチ事業『おでかけアリオス』より んまつーボス 身体表現 ワークショップを体験しちゃう!」(講師: んまつーボス、高橋るみ子)

●コースコーディネーター

○ホール入門コース

龍亜希(北九州芸術劇場プロデューサー)

○自主事業(音楽)コース

田村緑(ピアニスト)

○公立ホール・劇場マネージャーコース

篠田信子(富良野メセナ協会代表)

●入門コースとマネージャーコース

ホール入門コースのコーディネーターを務めたのは、北九州芸術劇場プロデューサーの龍亜希さんです。同劇場では「キタQアーティストふれあいプログラム」として学校で身近にアーティストとふれあう事業を展開。今回は、特別支援学校などにアウトリーチをしているダンサーのセレノグラフィカ(隅地菜歩さん、阿比留修一さん)によるプログラムを体験。また、グループに分かれてダンスをつくり、照明プランまで考えた発表も行われました。

特徴的だったのは、セレノグラフィカによるワークショップ解体新書とも言えるプログラムについての丁寧なレクチャー。例えば、舞台上を歩いているなかで徐々にそのエリアを狭めていく「田の字歩き」について「経験値に左右されずに取り組めることを意識し、いろいろなコンディションの子どもがフラットに取り組めるよう、ダンスの入り口として歩くことから始めている。田の字に歩くことで友達との距離感が自然に変わり、空間も把握できる」などと解説。北九州芸術劇場が学校に配布している資料を元に具体的な方法も紹介されました。龍さんは、「多様な価値観をもっているアーティストだからこそ子どもたちの想像力に気づいて引き出せる。その出会いをつくりたい」と事業の狙いについて話していました。

NPO法人ふらの演劇工房の立ち上げメンバーであり、現在は富良野メセナ協会代表の篠田信子さんがコーディネーターを務めた公立ホール・劇場マネージャーコースでは、異なる立場のオピニオンリーダーが問題意識を喚起する講義を展開。ニッセイ基礎研究所研究理事の吉本光宏さんが公立ホールの現状と役割をわかりやすく整理し、主婦だった篠田さんが腹を括り「文化の香るまち富良野」を目指した経験談を、しいの実シアター芸術監督の園山土筆さんは信念をもった実演者が移住した村と一緒に劇場建設を実現した体験を語りました。また、2002年から18年まで上田市長を務め、上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館(サントミュージゼ)の建設を推進した母袋創一さ

んは、市長として“腹を括った”という貴重な経験を話しました。「何かをやるときには推し進める人が必要。その役割を市長として担った。文化を通じてまちの魅力づくりが可能か、人を育てられるか、という思いをもち続けていたところ、建設地の確保などチャンスが巡ってきた。まちづくりという観点から市長部局で所管し、実態を知るためにも直営で5年間運営することにした」など、設置者の思い溢れる言葉に、受講生は気持ちを揺さぶられていました。

また、ラボの開催館が企画する共通プログラムでは、「おでかけアリオス」で実施している、んまつーポスの身体表現ワークショップ(*)を体験しました。んまつーポスは、国内外での上演に加え、宮崎大学と連携してダンスのワークショップ教材を多数開発しているダンスカンパニーです。こうした座学では学べない体験型双方向性のステージラボは、2020年度も2月にiichiko総合文化センター(大分市)で開講予定です。ぜひご参加ください。



企画発表の様子(ホール入門コース)

*学校体育における創作ダンス「ダンス映像作品を創ろう!」
内容:覚える→創る→撮影する→編集する
→鑑賞する→興奮する→解散する
実施時間:90分

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部 三田
Tel. 03-5573-4066

ステージラボいわきセッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業(音楽)コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	開講式/オリエンテーション・施設見学等		
2月18日	「お互いを知りあうじかん〜演劇ワークショップ」田上豊	①「仲間と出会う、音と出会う、4日間のテーマの共有」 ②「三和地区バスツアーに向けて」 田村緑、草野達也	「簡単な自己紹介」 篠田信子 「公共ホールの果たす役割・芸術活動と公共性」吉本光宏
	全体交流会		
2月19日	「公共ホール・劇場の変遷と現在の課題」津村卓、龍亜希 「北九州芸術劇場の取組みから(事例紹介)」 セレノグラフィカ、吉松寛子、龍亜希	「町と出会う①」(三和地区へのバスツアー) 長谷川梢 「町と出会う②」(三和地区へのバスツアー) 永山肇一、常光今日子、田村緑	「地域課題に気づき挑戦してきた事例」篠田信子 「ホール設置者からのメッセージ」 母袋創一 「地域に根差した企画運営の実践現場から」園山土筆
	共通プログラム「いわきアリオス アウトリーチ事業『おでかけアリオス』より んまつーポス 身体表現 ワークショップを体験しちゃおう!」んまつーポス、高橋のみ子		
2月20日	「(学校)アウトリーチについて考える〜プログラム体験」 セレノグラフィカ、吉松寛子、龍亜希 「事前ディスカッション〜最終日の企画発表に向けて」龍亜希 「コンテンツボラリーダンスのじかん〜知って、体を動かして、つくってみる」 セレノグラフィカ	「地域と芸術の融合:ゼロから1へ。企画を生む」中尾友彰 「地域と芸術の融合:ゼロから1へ。コミュニティを生む」大月ヒロ子 「地域と芸術の融合:ゼロから1へ。芸術と遊ぶ」 ①ベートヴェンと遊ぶ ②言葉と遊ぶ セレノグラフィカ、田村緑 「企画立案」田村緑、大月ヒロ子	「総括」 園山土筆、津村卓、篠田信子
2月21日	「企画発表のじかん」 龍亜希	「発表・フィードバック・まとめ」 田村緑、大月ヒロ子	修了式
	修了式		

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2020」

[日程] 5月25日(月)、26日(火)
[会場] 東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋1-8-1)

[料金] 無料

※例年7月末頃に行っていますが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を考慮し、今回は時期を前倒し、例年と一部内容を変更しての実施となります。

◎申し込み方法

当財団ウェブサイトにある「参加申込フォーム」からお申し込みください。また、申込書による受付を希望の場合は下記メールアドレスにお問い合わせください。

●URL

<https://www.jafra.or.jp/event-request/02/>

●メールアドレス

festival@jafra.or.jp

◎問い合わせ

芸術環境部 フェスティバル担当

Tel. 03-5573-4068

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ

総務部 宮下

Tel. 03-5573-4056

●「第20回地域伝統芸能まつり」中止のご報告

2月23日(日)にNHKホールで開催を予定しておりました「第20回地域伝統芸能まつり」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、中止いたしました。また、3月14日(土)に予定しておりましたテレビ放映も中止と

なりました。関係者の皆様、また本イベントを楽しみにしていただいた皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。今回の対応につきましてご理解いただくとともに、今後とも「地域伝統芸能まつり」をよろしく願います。

●「地域創造フェスティバル2020」参加者募集

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、地方公共団体や公共ホールが事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的に「地域創造フェスティバル2020」を東京芸術劇場で開催します。

会場では、公立文化施設における人材育成に関するセミナーや、おんかつ支援登録アーティストによるプレゼンテーションなどにご参加

いただけます。

また、各日ともに情報交換会を設けており、地域創造登録アーティストや他の公共ホール等とのネットワークづくりや情報交換の場としても活用が可能です。

※地域創造フェスティバルは事前申し込み制です。お申し込み方法については左記要領および同封のチラシをご覧ください。

募集締切: 5月15日(金) 必着

「地域創造フェスティバル2020」プログラム

*詳しいプログラム内容やタイムスケジュールは同封チラシをご覧ください。
*プレゼンテーション出演アーティストは変更になる場合がございます。
*各プログラムは定員になり次第、締め切らせていただきます。

5月25日(月)	5月26日(火)
<p>●文化政策セミナー「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設Vol.2—公共ホールの事業からみる運営と人づくり—」 [パネリスト] 草加叔也、真田弘彦、堀内真人 [ファシリテーター] 吉本光宏</p>	<p>●おんかつセミナー [ファシリテーター] 小澤櫻作、丹羽徹、山本若子、児玉真ほか</p>
<p>●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 今野尚美、泊真美子、中川賢一、中野翔太 [弦楽器] 磯絵里子、大森潤子、甲斐摩耶、瀧村依里(ヴァイオリン)/海野幹雄(チェロ) [管楽器] 荒川洋、森岡有裕子(フルート)/高見信行(トランペット)/喜名雅(テューバ) [声楽] 廣田美穂(ソプラノ)/菅家奈津子(メゾ・ソプラノ)/糸賀修平、村上敏明(テノール)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) [打楽器] 大熊理津子、塚越慎子(マリンバ)/野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) [アンサンブル] Duo Yamaguchi (ピアノ&チェロ)/デュオ・レゾネ(クラリネット&ピアノ)/泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)/Quartet SPIRITUS (サクソフォン四重奏)/Quintet H (木管五重奏)/Buzz Five (金管五重奏)</p>	<p>●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 新居由佳梨、新崎誠実、岩崎洵奈、酒井有彩、白石光隆、田村緑 [弦楽器] 北島佳奈、高橋和歌、松本蘭、早稲田桜子(ヴァイオリン)/奥田なな子、加藤文枝(チェロ) [管楽器] 田中拓也、田村真寛(サクソフォン)/加藤直明(トロンボーン) [声楽] 大森智子、乗松恵美(ソプラノ)、吉川健一(バリトン) [打楽器] 浜まゆみ(マリンバ)/宮本安子(打楽器・マリンバ) [その他] 松尾俊介(クラシック・ギター)/江崎浩司(リコーダー)/福島青衣子(ハーブ)/山本奈央(オカリナ) [アンサンブル] デュエットウかなえ&ゆかり(ピアノデュオ)/Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)/ピアノトリオ・ミュゼ(ピアノトリオ)/Quatuor B、アーバンサクソフォンカルテット(サクソフォン四重奏)/BLACK BOTTOM BRASS BAND (ブラスバンド)</p>

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォーム、研修会/シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元へ届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2~3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

●リージョナルシアター事業の発展事例～神奈川県立青少年センターの取り組み～

演出家を公共ホールに派遣し、ホールとともに演劇の手法を使ったアウトリーチやワークショップを企画・実施するリージョナルシアター事業。今年度は、秋田県能代市(能代市文化会館)、京都府(京都府立けいはんなホール)、愛媛県松山市(松山市総合コミュニティセンター)、大分県九重町(九重文化センター)、宮崎県門川町(門川町総合文化会館)の5地域で実施し、各地でユニークな取り組みが行われた。

この事業は、演劇の幅広い可能性についてホール職員の理解を深め、演劇の手法を使った地域活性化の試みを後押しするプログラムとして平成26(2014)年度よりスタートした。これまで6年間で36地域にアーティストを派遣。この事業で出会った演出家と独自事業を展開するところも生まれている。

そのひとつが、2017年度に多田淳之介さんとリージョナルシアター事業を実施した神奈川県立青少年センターだ。青少年センターは、ホール運営課、青少年サポート課(ひきこもり・不登校などの支援)、科学支援課、指導者育成課により青少年の健全育成と教養の向上を図る拠点。リージョナルシアター事業で課を横断した取り組みを行い、小田原のフリースクール「寄宿生活塾 はじめ塾」(*)へのアウトリーチを実施した。

「青少年センターとして、4つの課がクロスファンクショナルして施設の強みを出していくことが課題となっていた時に、リージョナルシアター事業ではじめ塾へのアウトリーチを青少年サポート課の協力で実施できたこと、また、館長を含めた多くの職員が多田さんのワークショップを受けたことで共通認識ができ、舞台芸術の力がさまざまな現場を繋げられることを実感した。2018年からは主催事業として舞台芸術活用青少年支援事業(課題を抱えた青少年に向けてコミュニケーションや自己肯定力を高めるためのワークショップを県内の青少年支援団体と協働で実施)を立ち上げ、その中で多田さんには継続してはじめ塾に関わってもらった」とホール運営課の藤岡審也さん。

「2年間ワークショップをやって、より複雑な創作が彼らにとっていい経験になるのではないかと、彼らの姿をいろんな人に知ってもらいたいと思った」という多田さんは、自ら主宰する東京デスロックと10歳から17歳までの寄宿生9名による舞台づくりを企画。新型コロナウイルス感染症の影響により一般公演『Anti Human Education II～

TEENS Edit.～』は中止になったが、2月28日に出演者の家族など関係者のみを招いて稽古の成果を披露した。

冒頭、多田さんは来場者に「演劇をつくるのは人間がどう考えているか、他者がどう考えているかを考えることであり、人間がどうコミュニケーションをしているかを考えること。劇団では集団で演劇をつくっているが、それと同じように今回は劇団員と寄宿生が話し合いながらつくった。テーマは“Try & Error”。決まった台詞をうまく言うためにTry & Errorするのではなく、他者にどういう体験がつかれるかをみんなでTry & Errorするのが演劇であり、今日の発表もTry & Errorの一環」と説明。寄宿生が朝の習慣にしている般若心経の読経からスタートし、みんなで考えた小学5年生のオリジナル授業(ex. どういう先生が良い先生かを考える学級会、迷惑行為をなくすための集団黙視ゲーム、満員電車を体験するゲームなど)を観客参加で展開した。

はじめ塾塾長の和田正宏さんは、多田さんとの経験について「答えのないもの、正解のないものをつくる演劇によって中高生はものごとに対する多様なアプローチの仕方を学んだ。僕たちには絶対につくれない贅沢な学びの時間になった。小学生たちはより狭い枠の中で暮らしているが、その枠から一步踏み出すことの喜びを成功体験として知った」と感動の面持ちだった。

一番驚いたのは、発表会終了後に寄宿生たちが塾長から紙をもらって熱心に自分の経験を書き留めていたこと。「同じことをやってもみんな違うことを感じている。それを細かい心のヒダまで書いて、他の人にも拡張していくために必ず書いている」と和田さん。こうした自分事としてとらえ、意識化し、他者への深い理解に繋げる作業こそ、青少年事業としては重要なのだと感じた。

(坪池栄子)



成果発表の様子 写真提供:神奈川県立青少年センター

*寄宿生活塾 はじめ塾

神奈川県小田原市にある寄宿生活塾。さまざまな関係性を学び、生きる力を身に付けていく夫婦小舎制の民間教育の場として誕生した。「生活」にはすべての教育的要素が含まれているとの考えから、寄宿塾という形態をとっており、日常生活と学習活動をベースに、農作業や音楽など多彩な活動を展開。現在は不登校になった子も含み、自立した生き方を模索して入塾する子など15人ほどの寄宿生が共同生活を送り、自宅から通う子たちもいる。

●リージョナルシアター事業

◎派遣アーティスト

- 多田淳之介(東京デスロック主宰、演出家)
- 田上豊(田上バル主宰、劇作家・演出家)
- 有門正太郎(有門正太郎プレゼンツ主宰、演出家・俳優)
- 福田修志(F's Company代表、劇作家・演出家)
- ごまのはえ(ニットキャップシアター代表、劇作家・演出家・俳優)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)

◎問い合わせ

芸術環境部 演劇担当
Tel. 03-5573-4124

*令和3年度の参加団体募集は、レター7月号で詳細をお知らせする予定です。多くのご応募を心よりお待ちしております。

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当

●2020年6月号情報締切
4月28日(火)

●2020年6月号掲載対象情報
2020年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

●地域創造レター3月号および4月号地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950 三木あき子
<https://www.hirosaki-moca.jp/>

開館記念 春夏プログラム Thank You Memory—醸造から創造へ—

かつてシードルを製造していた煉瓦倉庫を建築家の田根剛が改修し再生した新しい美術館の開館記念展。場所と建物の“記憶”に焦点をあて、8名のアーティストによる新作を中心に展示する。またアーティストによる滞在制作やリサーチ、パブリックプログラムを想定したプロジェクト「弘前エクステンジ」を年間を通して実施。第1回として弘前ゆかりの逸彦舟が開館記念展にも参加する。
[日程] 4月11日～8月31日
[会場] 弘前れんが倉庫美術館

●秋田県秋田市

NPO法人アーツセンターあきた
〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学 アトリエももさだ内
Tel. 018-888-8137 岩根裕子
<https://www.artscenter-akita.jp/>

アウト・オブ・民藝 | 秋田雪櫃編 タウトと勝平

秋田公立美術大学が大学と地域を繋ぐプロジェクトの一環として運営するギャラリーが実験

的な企画を公募する「BIYONG POINT企画公募」で採用された企画展。「アウト・オブ・民藝」とは、名も無き職人の手から生み出された「民藝(民衆的工芸)」周辺の動きについてリサーチする活動。秋田編の展示ではドイツの建築家ブルーノ・タウト(1880～1938)が秋田での滞在を記した書籍を紐解き、秋田で独自の色刷版画を制作していた勝平得之(1904～71)が残したタウトにまつわる文献資料、戦前の秋田の民具を展示する。

[日程] 1月18日～5月10日

[会場] 秋田公立美術大学ギャラリー-BIYONG POINT(ビヨンポイント)

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855 藤井正輝
http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/index.html

山岳の美・水辺の美

山や水辺の四季折々の姿を描いた日本画や洋画、彫刻などを取り上げた展覧会。富士図や花鳥画などで名作を残した横山大観をはじめ、平福百穂、後藤純男、寺崎広業、福田豊四郎、高橋清見、酒井三良など、自然界の美に魅せられた作家たちがその思いを表した多彩な作品55点を紹介。

[日程] 2月6日～4月13日

[会場] 秋田県立近代美術館



高橋清見《花明り》(1994年/秋田県立近代美術館蔵)

関東

●群馬県前橋市

アーツ前橋
〒371-0022 前橋市千代田町5-1-16
Tel. 027-230-1144 五十嵐・吉田
<https://www.artsmaebashi.jp/>

廣瀬智央 地球はレモンのように青い

ミラノを拠点に活動する廣瀬智央の個展。廣瀬は、豆やパスタをはじめ誰もが知る日常の素材を用い、詩的な表現を行うことで知られる。90年代後半より日本での活動も本格化し、人の嗅覚を刺激する作品《レモンプロジェクト03》で注目を浴びた。国内の美術館で約20年ぶりとなる本個展では同作のほか、イタリア渡航以降に発表した初期の作品から国内未発表作品、そして新作の展示も行う。
[日程] 4月10日～6月14日
[会場] アーツ前橋

●さいたま市

さいたま市岩槻人形博物館
〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6-1-1
Tel. 048-749-0222 菅原千華
<https://ningyo-muse.jp/>

開館記念名品展 I 雛人形と犬管・天児・這子

日本有数の人形産地である岩槻に2月22日にオープンした日本初の公立の人形専門博物館「さいたま市岩槻人形博物館」の開館を記念し、3期にわたって館蔵の名品を紹介する。I期では、雛人形のほか、人形のルーツとされる希少な犬管(いぬばこ)、天児(あまがつ)、這子(ほうこ)を展示。なかでも犬管はその迫力と造形的な美しさから館蔵品を代表する名品。
[日程] 2月22日～4月12日
[会場] さいたま市岩槻人形博物館

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

● 埼玉県川口市

川口市立アートギャラリー・アトリア
〒332-0033 川口市並木元町1-76
Tel. 048-253-0222 秋田美緒
<http://www.atlia.jp/>

新鋭作家展 第9回優秀者 遠藤夏香、木村剛士くざらざら の実話

公募で選ばれた作家が、地域への取材や公開制作などを通して新作をつくる公募企画展。遠藤夏香は、他者が残した記憶・記録や物語の背景などについて、自身の身体的尺度を基軸に絵の具を指で直接取って描き出す。一方で木村剛士は、地域との融和を計りつつも客観的視野に立ち、細部まで徹底的につくり込んだ立体物を制作する。

[日程] 4月4日～5月24日
[会場] 川口市立アートギャラリー・アトリア



木村剛士〈インターネット鑄造〉(2019年)

● 埼玉県所沢市

所沢市文化振興事業団
〒359-0042 所沢市並木1-9-1
Tel. 04-2998-6500 富田・川島
<http://www.muse-tokorozawa.or.jp/>

所沢ミュージズ・オペラ・ガラ・コンサート

大規模改修を終えた所沢ミュージズのリニューアルオープンに合わせて、国内外で活動する気鋭のオペラ歌手8名が共演するコンサート。それぞれの歌手が磨きをかけてきた得意の役柄のエリアを披露する。今回は、所沢市が東京2020オリンピックのイ

タリアのホストタウンとなったことを記念して、イタリアの作曲家の作品を特集。

[日程] 4月18日
[会場] 所沢市民文化センター ミューズ アークホール

● 東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー3・4F
Tel. 03-5432-1543 佐藤史治
<https://www.setagaya-ldc.net/>

世田谷クロニクル 1936-83

2015年より取り組んできた、世田谷区内の一般家庭に眠る8ミリフィルムを収集・公開・保存・活用するプロジェクト「穴アーカイブ」の成果報告展。デジタル化ウェブサイトで開催している84巻の8ミリフィルムとともに、12人のフィルム提供者の語りも紹介する。会期中は来場者の断片的なオーラル・ヒストリーも会場内に展示し、個人の記録や記憶がもつ価値を再確認するとともに、昭和から今の時代を紐解いていく。

[日程] 3月14日～4月5日
[会場] 生活工房



展示の様子 撮影:Daisaku Oozu

● 東京都渋谷区

渋谷区立松濤美術館
〒150-0046 渋谷区松濤2-14-14
Tel. 03-3465-9421 大平・清水
<https://shoto-museum.jp/>

いっぴん、ベッピン、絶品!～歌麿、北斎、浮世絵師たちの絵画
1点ものの肉筆浮世絵、特に美人画に焦点を当てた展覧会。喜多川歌麿や葛飾北斎などの新

発見・再発見作品のほか、重要文化財・重要美術品を含む約80件を紹介する。北斎による肉筆春画など貴重な作品も含め、初期風俗画から幕末・明治の美人画まで、江戸時代の美人画の変遷を通覧できる構成で、著名な浮世絵師たちの“別嬪(べっぴん)”を描いた“一品”だけの“逸品”が堪能できる。

[日程] 4月4日～5月17日
[会場] 渋谷区立松濤美術館

● 横浜市

横浜美術館
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel. 045-221-0300 柏木智雄
<https://yokohama.art.museum/>

澄川喜一 そりとむくり

東京スカイツリーのデザイン監修でも知られる戦後日本の抽象彫刻のバイオニア・澄川喜一(1931～)の大規模個展。木や石などの自然素材に対する深い洞察を経て、日本固有の造形美と深く共鳴する抽象彫刻「そりのあるかたち」シリーズを展開した澄川。五重塔など古建築の優美な反り(そり)や緊張感みなぎる日本刀の反りなど、日本の風景や伝統的な造形に見られる多様な反りや起り(むくり)が、澄川の美の原点として制作の根底に据えられている。最新作を含む約100点の作品・資料によって、60有余年に及ぶ創作活動の全貌を改めて回顧する。

[日程] 2月15日～5月24日
[会場] 横浜美術館



〈木の群れ〉(1992年/鳥根県立美術館蔵)
©Sumikawa Kiichi

北陸・中部

● 富山県富山市

富山市ガラス美術館
〒930-0062 富山市西町5-1
Tel. 076-461-3100 中島春香
<http://toyama-glass-art-museum.jp/>

ミクロコスモス

あらたな交流のこころみ

身の回りの世界と自分自身との関係について熟考しながら、ガラスを用いて表現を行う7名の作家を紹介する展覧会。作家たちは身近な植物や生き物、あるいはそれぞれの表現素材そのものの中に、力強さや美しさ、生命感を見出しながら、繊細で複雑な作品世界を構築している。本展では、豊かな想像力をもって周囲の世界と関わりあうことの重要性を提示する、ガラスと表現の新たな様相を楽しめる。

[日程] 2月29日～6月21日
[会場] 富山市ガラス美術館

● 石川県輪島市

石川県輪島漆芸美術館
〒928-0063 輪島市水守町四十筋11
Tel. 0768-22-9788 高津綾乃
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/home.html>

うるしのあ・い・う

— 漆芸技法の百科事典 —

漆芸(漆芸)作品は数え切れないほどの道具や、多岐にわたると同時に細分化されたさまざまな技法を用いて制作される。本展では、漆芸の多種多様な技法の中でも沈金、蒔絵などの「加飾技法」に焦点を当て、作品だけではなく、加飾技法のために必要となる材料や道具などの資料の展示を通じて、奥深い漆芸技法の数々を、百科事典を紐解くように楽しむことができる。

[日程] 2月29日～5月11日
[会場] 石川県輪島漆芸美術館

●福井県福井市

福井県文化振興事業団

〒918-8152 福井市今市町40-1-1

Tel. 0776-38-8288 佐々木玲子
<https://www.hhf.jp/>

第18回ハーモニー ブンカさろん〜音楽のある街〜

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターのヴァイオリニスト・近藤薫が、同楽団首席チェロ奏者の渡邊辰紀、ピアニストの長尾洋史と共に、今年生誕250年を迎えるベートーヴェンと彼にまつわる作曲家の作品をそれぞれのエピソードを交えながら披露する。演奏後は、ドイツ菓子のヘレントルテと当日限定のコーヒー「ベートーヴェンブレンド」を楽しむことができる。

[日程] 4月20日

[会場] ハーモニーホールふくい

●静岡市

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5730 内田稔子
<https://festival-shizuoka.jp/>

ふじのくににせかい演劇祭2020

国内外の優れた舞台芸術作品を招聘・紹介し続けている演劇祭。今回は、宗教・民族の壁を越え恋に落ちた男女そして家族の物語を描く『空を飛べたなら』（ワジディ・ムアウッド作・演出）や、写真家レン・ハンへのオマージュとなる『OUTSIDE レン・ハンに詩に基づく』（キリル・セレブレンニコフ演出）、唐十郎が状況劇場時代に手がけた戯曲を宮城聡芸術総監督が野外劇として甦らせる『おちよこの傘持つメリー・ポピンズ』など6作品を上演。静岡市街地では、仏米で絶賛された宮城演出の『アンティゴネ』やストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」（いずれも5月2日～5

日）が行われ、街は演劇一色に染まる。

[日程] 4月25日～5月6日

[会場] 静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほか

●名古屋市

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5609 藤井明子
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

中川賢一・野村誠ピアノ・コンサート「愛と知のメシアン!!」

フランスの作曲家オリヴィエ・メシアンを愛してやまないふたりのアーティストによるコンサート。メシアン演奏のスペシャリストであるピアニストの中川賢一がメシアン本人やメシアンに影響を受けた作曲家の曲を披露するほか、作曲家・野村誠がメシアンに捧げた作品や本公演のために新しく作曲する作品を中川と2台のピアノで披露。演奏とともにメシアンへの“愛”と“知”がこもったトークも見どころ。

[日程] 4月12日

[会場] 愛知県芸術劇場

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7150 古川

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

ベートーヴェン生誕250年記念 レクチャーコンサート

ベートーヴェンの究極のソナタ
今年生誕250周年を迎えるベートーヴェンの作品の中から、《熱情》の愛称どおり情熱に溢れたピアノ・ソナタ第23番と、苦悩の末に到達した静謐な祈りの境地とも言える最後のピアノ・ソナタ第32番を取り上げる。ベートーヴェン研究家の横原千史による解説と、滋賀県出

身のピアニスト・上田明美の演奏を交え、中期と後期の最高傑作である「究極のソナタ」を通してベートーヴェン音楽の神髄に迫る。

[日程] 4月5日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール

●大阪市

大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)

〒542-0075 大阪市中央区難波千日前12-7 YES・NAMBAビル7F

Tel. 06-6631-0884 大西律子
<http://wahha-kamigata.jp/>

芸人さんは多才だ!

漫才や落語、講談、浪曲など、ジャンルや芸能プロダクションの垣根を越えて上方の笑いの歴史と魅力を体感できる、全国で唯一の演芸資料館「ワッハ上方」で「演芸人とアート」をテーマにした企画展示を実施。昭和から令和までの時代を彩る演芸人が生み出した小道具や絵画などのアート作品が一堂に会する。第1弾は、横山ホットブラザーズの手づくり楽器など、おなじみの演芸人の作品に注目。

[日程] 1月22日～7月26日

[会場] 大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)

●大阪府八尾市

八尾市文化振興事業団

〒581-0803 八尾市光町2-40
Tel. 072-924-5112 井上恵理子

<https://prismhall.jp/>

第5回Yao人形劇まつり2020

2016年にスタートした人形劇フェスティバル。今年は東京で開催される「2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル」(5月14日～24日)に参加するアルゼンチンのオマール・アルパレス人形劇団『スズの兵隊』を特

別上演。ほかにも人形劇団クラルテの公演や、地域で活躍する八尾人形劇連絡会の公演など、プロからアマチュアまでさまざまな人形劇が楽しめる。子育てを応援するグループが集まりワークショップなどを楽しめるひろばも設けられ、子どもの豊かな成長を応援する。

[日程] 4月25日、26日

[会場] プリズムホール(八尾市文化会館)



オマール・アルパレス人形劇団「スズの兵隊」
© Julián Aguirre

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5607 林優
<http://www.ytmoca.jp/>

兵庫県立横尾救急病院展

美術館を病院に見立て、眼科や小児科、外科などさまざまな診療科ごとに横尾忠則の絵画や版画、ドローイング、著書や愛読書などの作品や資料を展示。特色のひとつである“入院病棟”では、大小さまざまな病歴をもつ横尾の病気にまつわる作品や病床での日記、入院中のスケッチなどを紹介。頭や心よりも肉體感覚を通して得られるものに信頼を置く横尾が考える肉體との付き合い方や、肉體と生活・創作との関係を探る。

[日程] 2月1日～5月10日

[会場] 兵庫県立美術館王子分館 横尾忠則現代美術館

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

中国・四国

●広島県尾道市

尾道市立美術館

〒722-0032 尾道市西土堂町17-19

Tel. 0848-23-2281 梅林信二

<https://www.onomichi-museum.jp/>

花のお江戸ライフ 浮世絵にみる江戸っ子スタイル

江戸後期の浮世絵画壇を代表する葛飾北斎、歌川広重をはじめ、歌川豊国、国貞などの作品約150点と、当時の食品を再現したサンプルなどを展示し、江戸の人々が愛した娯楽の秘密に迫る展覧会。猫好きで知られる歌川国芳の猫が擬人化された役者絵やおもちゃ絵など、猫をテーマとした作品を紹介する特設コーナーも設置。浮世絵の世界を通じて、花のお江戸ライフを楽しめる。

[日程] 3月14日～5月6日

[会場] 尾道市立美術館

●山口県長門市

香月泰男美術館

〒759-3802 長門市三隅中226

Tel. 0837-43-2500 丸尾いと

<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/kazukiyasuo/>

蘇一香月泰男作品修復の足跡一

香月泰男美術館では、経年に加え、光や温度、湿度や保存環境など、さまざまな条件が影響する作品の劣化に対し、カビの除去や汚れ落とし、画布の歪みの解消などの修復を行ってきた。本展では、美術館は作品を展示するだけでなく、作品を後世に護り・伝えるという2つの使命を示すことを目的に、修復を経て蘇った作品を、その過程と併せて展覧する。

[日程] 1月19日～5月24日

[会場] 香月泰男美術館

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

〒763-0022 丸亀市浜町80-1

Tel. 0877-24-7755 古野華奈子

<https://mimoca.org>

猪熊弦一郎展

アートはバイタミン

1年3カ月に及ぶ建物改修工事を経たりオープンを記念し開催される展覧会。「猪熊自身の暮らし」「プライベート空間への美の提供」「パブリックアート」の3部構成で、美術館を「病院」、家で見る絵は「バイタミン(ビタミン)」と考えていた猪熊弦一郎が考えるアートの役割と猪熊作品が生活の中につくり出した美のあり方を紹介する。

[日程] 4月18日～6月28日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

●高知県高知市

高知県立美術館

〒781-8123 高知市高須353-2

Tel. 088-866-8000 塚本麻莉

<https://moak.jp/>

収集 → 保存 あつめてのこす

美術館が司る収集と保存という2つの機能を切り口に収蔵品を展覧する企画展。「収集」のセクションでは、来歴や収蔵経緯、アート市場での評価など、収集にまつわるさまざまなエピソードを交えて作品を展示。一方「保存」では、1998年の高知豪雨水害の被災作品を修復前の写真資料とともに展示するほか、作品の素材技法の科学分析、作品保存についての作家へのインタビューを紹介する。

[日程] 4月4日～5月17日

[会場] 高知県立美術館



森村泰昌《肖像(双子)》(1988～90年/高知県立美術館蔵) © Yasumasa Morimura

九州・沖縄

●大分県大分市

大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2-1

Tel. 097-533-4500 宇都宮・宗像

<http://www.opam.jp/>

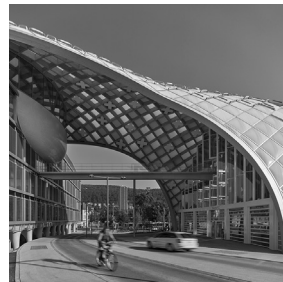
坂茂建築展

仮設住宅から美術館まで

開館5周年を記念し、同館の設計者・坂茂の展覧会を開催。坂が手がけた美術館やコンサートホールなど数々の建築物の設計活動や、被災地支援の取り組みを写真や図面、映像で紹介。建築の構造やジョイントの細部、素材も見るができる実物大模型も展示する。期間中、坂が東日本大震災の際設計した「避難所用「紙の間仕切り」システム」の組立て、設置のワークショップなども開催する。

[日程] 4月24日～6月21日

[会場] 大分県立美術館



2019年に完成した坂茂設計のスウォッチ社(Switzerland)本社ビル。世界最大級の木造建築 ©Didier Boy de la Tour

●宮崎県宮崎市

宮崎県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 児島望

<http://www.mmfes.jp/2020/>

第25回宮崎国際音楽祭

1996年に故アイザック・スターンを招いて「宮崎国際室内楽音楽祭」として始まった音楽祭。25周年を迎える今回の目玉は、音楽祭を支えてきたスターンのメモリアルコンサート。指揮を息子のマイケル・スターンが務めるほか、愛弟子ピンカス・ブー

カーマン(ヴァイオリン)などが出演する。市民合唱も参加するオペラ公演では、5年前にも好評を博した『トゥーランドット』を、25周年記念の新バージョンとして上演。著名なゲストを招くトーク・コンサート「Oh! My! クラシック」ではジャーナリストの池上彰が自ら愛する音楽を徹底解説する。

[日程] 4月29日～5月17日

[会場] メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)ほか

●鹿児島県霧島市

みやまコンセル(霧島国際音楽ホール)

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 五代香織

<https://miyama-conseru.or.jp/>

チェロまるフェスタ2020

ホールにより親しんでもらえるよう思いを込めたみやまコンセルのマスコット「チェロまる」が出迎え、0歳児から楽しめるコンサートやワークショップ、マルシェなど親子で楽しめる音楽フェスティバル。クラシックの名曲やポップス、音楽物語『大きなかぶ』をピアノや歌、サクソフォン、ハープ、打楽器の編成で披露するほか、来場者もポディパーカッションや歌で参加できるピアノと声楽アンサンブルなど、室内楽に適したホールならではの本格的な演奏が楽しめる。

[日程] 4月29日

[会場] 霧島国際音楽ホール(みやまコンセル)



チェロまるフェスタ昨年の様子

公立文化施設の指定管理期間は長期化の傾向

2019年度
「地域の公立文化施設実
態調査」① 速報

全体概要

*2019年度「地域の公立文化施設実態調査」報告書は、地域創造ホームページに掲載予定です(2020年5月頃)。

●2019年度「地域の公立文化施設実態調査」調査概要

○調査対象

公立文化施設のうち、「専用ホール」、「その他ホール」、「美術館」、「練習場・創作工房(アーティスト・イン・レジデンス施設を含む)」およびそれらを含む「複合施設」と、施設の設置主体にあたる地方公共団体。

○調査時期

2019年9月～11月

○調査方法

全国の地方公共団体の文化振興ご担当者、当該団体が設置主体となっている調査対象施設を記入する「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」、「施設調査票」を配布。当該団体において「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」の記入および「施設調査票」の各施設への配布と取りまとめをしていただいた。

○調査回収数

●地方公共団体票の有効回収数
1,645(都道府県47(100%)、政令市20(100%)、市区町村1,576(91.5%)、広域行政2)

●地方公共団体からの回答

3,442館 延べ3,671施設

(「専用ホール」1,483、「その他ホール」1,363、「美術館」648、「練習場・創作工房」177)

●地方公共団体から回答があった3,442館のうち、施設からの施設調査票の有効回収数

3,343館 延べ3,568施設

(「専用ホール」1,455、「その他ホール」1,310、「美術館」628、「練習場・創作工房」175)

●調査研究に関する問い合わせ

芸術環境部 青井

Tel. 03-5573-4077

地域創造では、公立文化施設の整備状況と管理運営の実態を把握するため、財団設立以来、ほぼ5年に一度の割合で、「地域の公立文化施設実態調査」を実施してきた(前回は平成26(2014)年度)。調査対象は、設置主体である地方公共団体および「ホール施設(舞台芸術の公演等を主目的とする『専用ホール』と舞台芸術以外を主目的とする『その他ホール』の2種に区分)」「美術館」「練習場・創作工房」である。今号から4回にわたり、昨年実施した最新調査から主な結果を紹介する。

なお、前回調査とは回答数(回収率)が異なること、数値は速報値であることを予めお断りしておく。

●公立文化施設数

地方公共団体からの回答に基づく今回調査での公立文化施設の数、全体で、3,442館となった。また、1つの館の中に、ホールと美術館など、複数の文化施設がある館があるため、延べ施設数では3,671施設となった。施設の種別ごとに見ていくと、専用ホールが1,483施設、その他ホールが1,363施設、美術館が648施設、練習場・創作工房が177施設となっている。また、文化施設が1つのみの単独館は3,229館、複数の文化施設が集まっている複合館は213館である[表1]。

2014年度調査と比較すると、館数では、3,588館から3,442館へと4.1%の減少となった。内訳を見ると、専用ホールでは1,490施設から1,483施設へと微減である一方、その他ホールは1,566施設から1,363施設へと減少幅が大きい。また美術館では、638施設から648施設へと逆に増加している一方、練習場・創作工房は233施設から177施設へと減少した。

専用ホールの内訳を見ると、単独館としては1,264館から1,334館へと大きく増加する一方、その他ホールとの複合館は113館から67館へと減少している。練習場・創作工房についても単独館は88館から87館へと1館のみの減少であるのに対し、複合館は145館から90館へと減少した。

このような結果となった背景として推測されるのは、その他ホールのうち、上演機能のある公民館などの減少である。文部科学省が3年ごとに実施している「社会教育調査」によれば、公民館数は1999年をピークに減少を始めており、その範囲は町村立から市立へと広がっている。こうした公民館の減少が、その他ホールおよびそれと複合化した練習場・創作工房の減少に繋がっている可能性が高い。一方、専用ホールや美術館の施設数の推移に見られるように、文化芸術を主目的とした施設については、今回調査に関して減少傾向は見られなかった。

●管理運営形態

各館の管理運営形態を見ると、指定管理が1,589館で全体の46.1%を占める(「公募」が27.1%、「非公募」が18.5%、「PFI事業者が指定管理者」が0.5%)。直営は1,843館、53.5%である。2014年度調査では、指定管理が1,526館(全体の42.5%)、直営が2,035館(56.7%)となっており、指定管理館がこの5年で4.1%増える一方、直営は9.4%減少するという結果になった。

設置主体との関係を見ると、公募・非公募を合わせて、都道府県施設で全体の73.7%、政令市施設では80.9%が指定管理となっているのに対し、市区町村では40.5%にとどまる。また、市区町村を人口別に見ると、人口が少ないほど指定管理が占める比率が下がっており、人口1万人未満では直営が86.2%とほとんどを占める[図1]。施設内容別では、指定管理の比率が最も高いのは専用ホールの62.5%で、次いで練習場・創作工房の57.7%が続く。一方、美術館(39.0%)、その他ホール(33.2%)は比較的低い。

●指定管理者

指定管理者の種別を見ると、全体で最も多いのは公益財団法人の38.1%で、次いで株式会社、有限会社など(営利法人)21.3%、共同事業体(JV)などのコンソーシアム(14.3%)

となっている[表2]。また指定管理期間は、3年未満(3.9%)、3~4年未満(12.1%)、4~5年未満(9.0%)、5~6年未満(68.4%)、6年以上(6.6%)となっており、2014年度調査に比して指定管理期間が長くなる傾向が見られる[図2]。

●施設の開館年

設置主体(地方公共団体)からの回答により、本調査で把握した全国の公立文化施設(本調査対象施設)は、前述のとおり3,442館であったが、そのうち対象施設から有効回答があったのは3,343館である。また延べ施設数については、設置主体からの回答数3,671

施設に対し、施設からの有効回収数は3,568施設となっている。このうち、開館年について有効回答があった3,527施設を整理すると、1980年から99年までの20年間に開館した施設が2,099施設と多く、全体の59.5%を占める。特に、1990年から94年にかけての5年間に650施設と全体の18.4%が開館している。1970年代までの開館数は566施設(16.0%)、2000年以降の20年間は862施設(24.4%)にとどまる。

また、施設ごとに見ると、練習場・創作工房の開館ピークが2000年代前半にあることを除き、すべて全体と同じ1990年代に開館のピークが来ている。

表1 施設内容別 館数と構成比

施設内容からみた種別	専用ホール	その他ホール	美術館	練習場・創作工房	2019年		2014年	
					館数	構成比(%)	館数	構成比(%)
単独	○				1,334	38.8	1,264	35.2
		○			1,239	36.0	1,359	37.9
			○		569	16.5	543	15.1
				○	87	2.5	88	2.5
小計					3,229	93.8	3,254	90.7
複合	○	○			67	1.9	113	3.1
	○		○		37	1.1	32	0.9
	○			○	33	1.0	42	1.2
		○	○		18	0.5	16	0.4
		○		○	27	0.8	44	1.2
			○	○	16	0.5	23	0.6
小計					198	5.8	270	7.5
3施設	○	○	○		1	0.0	7	0.2
	○	○		○	7	0.2	19	0.5
	○		○	○	3	0.1	9	0.3
		○	○	○	3	0.1	4	0.1
小計					14	0.4	39	1.1
4施設	○	○	○	○	1	0.0	4	0.1
総計					3,442	100.0	3,588	100

表2 指定管理者の種別

	指定管理施設全体	公共団体・公共的団体	公益財団法人	一般財団法人	公益社団法人	一般社団法人	NPO法人	株式会社、有限会社など(営利法人)	任意団体	共同事業体(JV)等のコンソーシアム	有限責任事業組合(LLP)	学校法人(国立大学法人や公立大学法人を含む)	その他	不明(未回答)
館数	1,589	28	605	151	10	29	85	338	28	227	2	1	27	58
(%)	100	1.8	38.1	9.5	0.6	1.8	5.3	21.3	1.8	14.3	0.1	0.1	1.7	3.7

図1 管理運営形態(設置主体別)

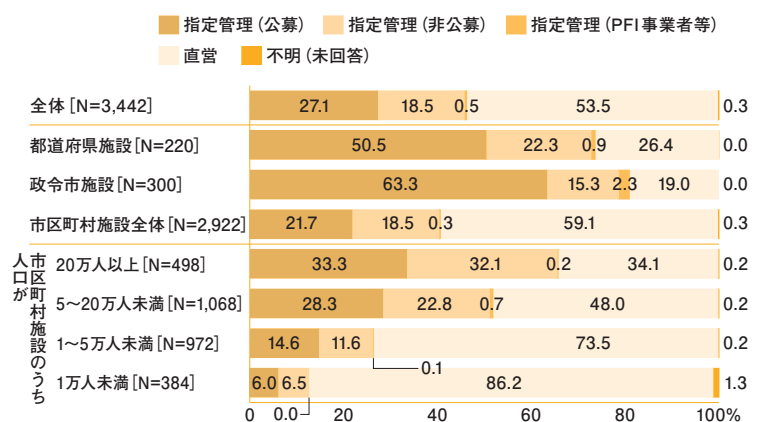
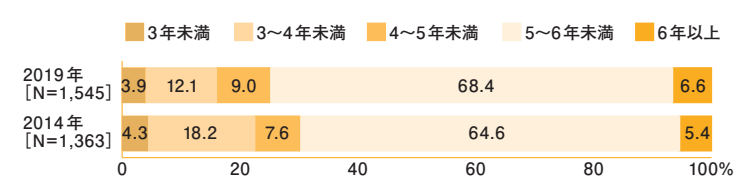


図2 指定管理期間



※図1・2、表2注:小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

静岡県島田市、川根本町

UNMANNED 無人駅の芸術祭 ／大井川2020



上:プラットホームに鎮座する“白い地藏”さとうりさ「地藏まえ」©UNMANNED / 中:集落の“妖精たち”が作品を身に纏って歩く江頭誠「間にあるもの」/ 下:島田市川根本町出身の作家・中村昌司による「黒いオッパイ」

● UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川2020

[会期] 2020年3月6日～22日

[会場] 大井川鉄道無人駅周辺(静岡県島田市・川根本町)

[主催] NPO法人クロスメディアしまだ
<http://cms.or.jp/>

[共催] 静岡県文化プログラム推進委員会
[協力] 大井川鉄道(株)、島田市、川根本町
[参加アーティスト] 関口恒男、江頭誠、さとうりさ、木村健世、北川貴好、栗原亜也子、ニシダヒデミ、夏池薫、中村昌司、形狩り衆、クロダユキ、カトウマキ、常葉大学造形学部

「越すに越されぬ大井川」と謳われた大井川の兩岸に広がる静岡県島田市。かつて東海道の宿場町として栄え、現在は緑茶の名産地として知られるが、2005年の約11万人をピークに20年には約9万8千人にまで人口が減少。特に山間部では高齢化が進み、大井川沿いを走る大井川鉄道も19駅中15駅が無人駅。その無人駅で2018年から開催されているのが「UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川」だ。折悪しく新型コロナ対応で縮小開催となったが、13組のアーティストが作品を展開している現地を、3月6日、7日のオープニングに訪れた。

3回目となる今年はメインの福用駅、抜里駅、塩郷駅やその周辺などに作品が展示された。ダムの取水によってほとんど流水のなくなった広大な河原が渓谷を激しく蛇行する大井川、美しい茶畑、古い駅舎という“場”に、大規模ではないがアーティストが地域との関係を丁寧に積み上げ、交流を楽しんだであろう愛情のこもった作品の魅力がプラスされていた。

例えば、1回目から参加しているさとうりさは、抜里駅に小学生の背丈ほどの白く丸みのある造形物「地藏まえ(サトゴシガン)」を設置。その子は、会期前、8軒の家に2泊3日の“里子”に出されていた。迎えた人々は、一緒に炬燵に入ったり、服を着せたり、抱きついたり、家族のように交流。駅舎にはその様子を自撮りした“家族写真”も飾られていた。「私のテーマはパブリックとプライベートの境目を探ること。作品がお地藏さんのように地域の人たちの日常に馴染み、受け入れられるのかを“里子”という新しい仕組みで試した」(さとう)。

木村健世は、駅周辺の住民から聞き取った思い出を元に新しい回想文を創作し、地域の記憶にふれるような短編集をつくった。1回目の福用駅編、2回目の駿河徳山駅編、そして今回が新作の抜里駅編で、各駅のブックシェルフに持ち帰り自由の文庫本として展示。また、駄菓子屋から鋳型工場になった建物、通称「せんべや(せんべいや)」では、北川貴好が家主や近所のおばあちゃんたちの出演でつくった“せん

べや”の謎に迫るユニークな映像作品を上映。江頭誠の花柄毛布製の農作業服を着た地域のおじさんたちの写真撮影も行われた。

この芸術祭を企画・運営しているのが、島田市でまちづくりを行う「NPO法人クロスメディアしまだ」だ。教育委員会社会教育課長の南條隆彦さんは、「そもそもは、災害時に備えるプラットフォームとして市・民間・市民が検討し、情報発信と市民活動の活性化を目的にポータルサイト『eコミュニティしまだ』を立ち上げたのが始まり。それを本格化するため、2010年に任意団体クロスメディアしまだ(翌年NPO法人化)を設立した」と振り返る。その時、事務局長(現NPO法人理事長)になったのが名古屋で広告代理店を経営し、Uターンしてきた大石歩真さんだった。「まずサイトで“島田が好きの人”の情報を発信した。そして、地域のコーディネーターとしてその人たちが交流する場を立ち上げていった」と大石さん。

この大石さんに加えてもうひとりのキーパーソンになったのが、NPO法人の事務局長になった元島田市商工会職員の兒玉絵美さんだ。「新潟の『大地の芸術祭』で地域の人とアートの関わりに感銘を受けたのが原体験。北川フラムさんやスタッフの関口正洋さんに飛び込みで挨拶もした」という兒玉さんは、2017年に商店街の空き店舗の活性化を考えるプロジェクトとして「ART CONNECT SHIMADA」を提案。アートの素人を自認する二人は、プロジェクトの内容をみんなで考えるワークショップからスタート。みんなが楽しんでいるのを見た二人は大井川鉄道の無人駅に舞台を移し、静岡県文化プログラムに応募。市のサポートに加え、県のコーディネーターからもアドバイスを受けて試行錯誤しながら形をつくり上げてきた。

島田生まれ・育ちのネットワークに加え、まちづくりで培った人の懐に入り込む大胆さと丁寧な関係づくりでアートという異物を受け入れる人々の寛容性を高め、アーティストたちの本気を引き出した小さな芸術祭——「身近な人が豊かな気持ちで暮らしていることが私たちの評価指標」という大石さんの言葉がすべてを物語っていた。(アートジャーナリスト・山下里加)